

教育類型 スキ―！実習

一月十七日土曜日、忌まわしい阪神淡路大震災が発生してから三十一年。早朝、テレビ画面を通して黙とうの後、学校に向かいました。

皆さんも、十五日朝のHRで追悼行事に参加しましたね。こんな体験は一生に一度あれば十分と当時は思っていました、今では毎年のように大震災に遭遇しています。

地球が私たちの「日々の甘え」に怒りを爆発しているのだからかとも思うことがあります、次世代の教育を担う教育類型の人たちが、偶然にもこんな日に、一年生として最後の体験研修であるスキー実習を、ちくさ高原スキー場に行いました。

皆さんの前途を示すような好天の下で実習をできたことは、技術だけではなく本当に伝えるべきことを考える機会にしてくれたのではないかと思います。



2025年12月31日
銭洗弁財天宇賀福神社



2026年1月1日
群馬高崎だるま市



2025年12月30日
新幹線車中にて

二〇二五年の終わり、二六年の始まりは、情報量の多さや伝達速度の速さという武器を持つデジタルに乗りながら、そばに五感を感じ心を揺さぶるアナログの良さを実感するものとなりました。

皆さんはどの程度、大好きなスマホに距離を置く時間が取れましたか？何事も無駄を削るのも大事なことの一つではあるけれど、そのような時間や空間を「無駄」というのか、「遊び」と考えることができるのか、そこに「何か」があると思うことができる人たちに、たくさん出会いたいものです。

アナログの力

デジタルもまた、上手く使いこなす方法があるのだと思いますが、昭和世代としては、目の前で震える空気、厚み、重みに勝るものはないと思います。「便利」に勝るものはないのかもしれないけれど、「便利」と感じるための「不便」をきちんと経験をすることも、とても必要なことです。

切り捨ててばかりでは「何が必要」かも、「何を必要」と考えるかも見失ってしまうことが多いです。

こういった話は、高校時代の「いま」は見えない辛さ、ことなので、無理に押し付けることはしませんが、皆さんの長い人生に残っていく、よみがえって力になってくれることであると、人生の先輩として伝えたいと思います。



2026年1月2日
永遠の18歳達
恩師とともに



2026年1月1日
皇居二重橋を望んで

アナログの力 PART2

二〇二六年も、今の時代には言われますが年賀状を三〇〇枚ほど出しました。お世話になった方、やり取りのある卒業生など입니다。年々年賀終いの挨拶も含んだ年賀とともに、送る年賀の枚数も減る一方ですが、一年に一回の文通を楽しんでいます。学年通信に掲載するようなものではないのですが、卒業生たちは自分たちが人生の先輩から伝えられたように、今の高校生たちに何か伝わるということがあればと、私を通じてメッセージを届けてくれています。機会があれば、その一部を皆さんにも伝えることができますと思っています。

ありがたいものです。卒業当初は印刷のみの年賀状で義理を果たすものも多かったですが、時が経つにつれて不思議なもので近況・悩み・私への励ましと、関は人を成長させていくのだと体感した一年の始まりでした。

練習初めの一月五日には、最上山公園に向かう途中で、以前学年通信で紹介した本校元職員の先生と偶然出会い、年始の挨拶を交わすことができました。

一月十一日には、他校の陸上競技部顧問の先生で教員になった当初から、競技会だけでなく生徒対応や保護者対応など、いろんなことを教えて下さった先生が「栗総合病院に来たついで」と、年賀状を見て学校まで顔を出して下さいました。直接お会いできたのは二十年振りにはなると思いますが、部員達に

一番は一人しかねないが

誰もが自分には勝てる

「自分に強くなれる人になろう」

と素敵な言葉を残していつて下さいました。

また、大雪警報で休校になった一月二十二日にはある大学の広報の先生が来校されました。その方も陸上競技部顧問をされていた先生で、しばらく一緒に部署で仕事をさせていただいた縁で、良くかわいがっていただきました。校長先生までされた先生ですが、気さくにお声掛けして下さいました。実は、ある有名な落語家の息子さんであるのですが…。

皆さんにとって記憶に残しておく、二年先の進学の際に役に立つ人もいる話です。今回の学年通信に、資料を添えておきたいと思います。

そして、皆さんが進路マップ・進研模試を受けていた一月二十四日の午後、

小粋な歌姫

と銘打って、八十回生もお世話になっている、音楽の松本温子先生の歌声を聴きに行きました。

基本的に、映画館で映画を観たいタイプなのですが、コンサート等の類は苦手です。

ただ、普段八十回生の授業の様子などをできる限り肯定的に、楽しく話して下さる松本先生とは異なる「本気」の姿を一度拝見したいと思い、一学年の先生方にわがままを言っ観に行かせて頂きました。始まりは、いつもと変わりのない明るく楽しげな観客を上手に巻き込む歌声を、映画の懐かしい曲に乗せてだったので安心しました。

それでも、普段とは少し違う「おしゃべり」の様子と、「ぶれない」高音から訴えられる歌声、ピンとまっすぐに伸びた姿勢には大変感動しました。

温子先生、素晴らしい機会を紹介して頂いたこと

に感謝します。ありがとうございました。これからも、山崎高校の生徒たちにも、私達にも、「素敵な」歌声だけでなく、先生が音に乗せて伝えたい想いを響かせて下さい。

お二人の「掛け合い」と、先生のお茶目なダンスには、普段の先生らしさが感じられて、それもまた素敵な姿でした。お疲れさまでした。



2026年1月24日
小粋な歌姫と仲間たち

今の時代は、電源を入れればすぐそこに「デジタルデータ」に辿り着くこともできるのでしようが、やはり、平面ではなく「何次元」もの要素に触れる膨らみを持ったモノの捉え方を身に付けてほしいと思います。

以上、二〇二六年も「アナログ」チックに、少し「デジタル」な武器を絡めていけるよう、自分を鍛える時間を大切にしていこうと思います。

この二字 二月編

入学時	『縁』
五月	『探』
六月	『声』
七月	『触』
一学期末	『律』
二学期始	『笑』
十月	『育』
十一月	『強』
十二月	『感』
二学期末	『動』
三学期始	『筋』

つい目先のことにこだわって、いろんな手順を踏むことなく事を終えようとするのが、恥ずかしながらこの歳になってもやってしまいがちです。

「筋を通す」という作業も、ある意味「アナログ」なのかもしれません。

それでも、社会で活躍する、役に立つ、重宝がられる人物となり得るには、物事の筋道を理解した上で、その奥にある「かゆいところ」に手が届くことまでできる人になつてもらいたいと思います。

一月の行事

一月はたくさんの講演会や研修発表の行事がありました。

十四日水曜日六時間目には防災学習を行いました。東日本大震災の生々しい映像は目を覆いたかった人もいたと思います。あれから十五年、記憶が薄れていくことのないようにとは思っています。

大小の差はありますが、ここところ頻繁に起きている地震の話題を見るにつけて、そう思わずにはいられません。

明けて十五日朝のSHRでは、兵庫県で起こった阪神淡路大震災の追悼行事が校内放送を通じて行われました。

私自身は、東日本大震災以上に阪神淡路大震災の記憶は鮮明に残っています。身近な人や同級生の家族などの死、住んでいた街並みの崩壊がわずか一瞬にして起こった事実を、皆さんも体験して知るのではなく、それらの学習を通じて、自分たちの「今」の当たり前がどれだけ幸せなことなのか伝わり、少しでも自分を鍛える努力をしてくれることを願うばかりです。

時を越えて起こった二つの震災ですが、不思議なことに二つを結びつけるものの一つが

四十六分

である偶然を、この機会に知っておいてもらえたらと思います。

その翌日の十六日金曜日には、二学年が三泊四日の修学旅行に旅立ちました。

一年後の一月十三日水曜日に、私たち八十回生の

修学旅行が同じく三泊四日で実施されます。

一方、さらにその翌日の十七日土曜、十八日日曜の二日間、七十八回生を主とした山崎高校の先輩方が共通テストに臨んでいました。二年後には、八十回生も共通テストに臨むこととなります。

それに向けて、闘う力をつけて、自分の学力の確認のために行う総合学力模試を、二十四日土曜日に行いました。まだ実感が沸かないかもしれませんが、「時」は待ってくれません。

少しでも早く自分が進むべき道が「具体化」すると良いですね。

週が明けて二十七日火曜日から三日間で、七十八回生の卒業考査が行われました。気持ちよく卒業に向けて考査の結果が出るよう、日々の「当たり前」を大切にする習慣をつけていきましょう。

同じく二十七日の七時間目の総合的な探究の時間に、神戸学院大学の学生とともに、宍粟市の魅力を探究活動した八十回生八名の成果発表会が開催されました。

何事も経験です。八名の皆さん、ご苦勞様、視聴者の皆さん、自分達の発表に活かせると良いですね。



そして最後に、二十八日水曜日五・六時間目には進路分野別ガイダンスが三部構成で行われました。全員が耳にしたかった話であったとは言えないですが、この機会も自分の未来を考えるきっかけになると良いですね。

それぞれのいろんな資料も頂いたかもしれませんが、別の機会に頂いたもので、森と食科・普通科ともに本校にとっては面白いと思われる資料をつけさせて下さい。



次号は、もう学年末考査も終わり、いよいよ学年の進級に向けての話も出ると思います。その前に、まずはしっかりと

足を地に着けて

この一か月を走り切りましょう。

